

夏 秋レポート  
UC Irvine 大滝謙太

今年の夏は TA と Qualifying exam があり非常に忙しくすぐに過ぎ去りました。

また秋が始まり新しい生徒の rotation が始まり、私のいるグループにも新しい仲間が何人か増えました。

今回のレポートでは Qualifying exam について主に書こうと思います。

Qualifying exam は PhD candidate としてふさわしいかどうかを審査する試験です。試験内容としては、PhD プログラムの 2-3 年間のあいだでどのように研究を進めていくかを現段階での実験結果と、他の研究者達により発表されている結果にもとずいて発表します。ここでは、ありえない量の実験を詰め込まず、物足りなくないだけの計画を発表する必要があります。

私の研究は原子炉等の放射線にさらされる環境下での材料(主にセラミックス)についての研究で、研究を進めるにはイオンビームの使用が不可欠でその上、ビームラインの確保は 100%確かなものではなかったのが、若干不安でしたがまったく問題なく合格しました。どうやら、今年から始めたプロジェクトにはたくさんデータがあり、顕微鏡を使った分析も審査員の気に入ったようで PI も大満足の様子でした。この試験の準備には数カ月かかりました。夏学期が始まる前あたりから、試験を受けなければという話を PI とし、夏が終わる前に手続きを済ませる必要がありました。一番の難所は五人の審査員の予定を合わせることでした。そして 5 人の内一人は違う学部から選ぶ必要があり、5 人とも研究ないように関する研究に親しい必要があります。審査員選びはわりと順調でしたが、この教授は海外に行っていないなくなるとか、この教授は Skype でならんとかなる等で、ギリギリまで試験日を決められず、いろいろなオフィスを行ったり来たりしました。そして最終的に夏学期に手続きを済ませるための最終締切日に試験を受けるという非常にリスクの高いことをすることになりました。

試験を受けて署名をもらいに回って学部の大学院支部のオフィスに書類を 4 時まで提出すれば無事手続きを済ませられるということで、事前にできることはすべて済ませ当日かかる時間を極限まで減らしました。この提出プロセスは心配していたよりも簡単に済み試験が終わって 1 時間もしないうちにすべて済みしました。

この試験は卒業するときのディフェンスまでの最後の試験だったので終わったあとの達成感と空虚感是非常に大きなものでした。これまでの勢いを失いたくなかったので、特に休みを取ったりせずすぐに研究に戻りました。ただ、現在試料をずっと準備する時期で実験室に行ってもあまり面白くないという状況です。

そんな中、ドイツに高エネルギーのビームラインがあることがわかり、その施設を来年の秋に使えるようにプロポーザルを書くことになりました。このプロセスでドイツでイオンビームを使った研究のトップの教授と知り合うことになりました。その結果、新しい実験を共同で行うことになり、来年はドイツとフランスでイオンビームの放射実験をすることになりました(すべてうまくいけば)。

10 月には Ohio で学会があり、オーラルプレゼンテーションをしました。これははじめてのオーラルプレゼンテーションでしたが、qualifying exam のあとでは 15 分の発表はなんとなく準備もほとんど入らずラッキーでした。オーラルプレゼンテーションはポスターと違って身一つとパソコンさえあればいいので移動が非常に楽でした。ただ、発表としては時間が限られているのと、部屋がたくさん分かれているのでポスターよりも、人々と話し合う機会が少ないです。

一番最近のニュースとしては、去年終わらせたプロジェクトの論文をようやく提出しました。書き上げてあって PI と最終的な仕上げを話し合うと言ってから早いこと何ヶ月も経ち、先日ようやく他のことがひと段落したので、PI に論文の仕上げを持ちかけました。その日の夕方から夜の 11 時頃まであーだこーだ話し合いようやく仕上げ提出しました。いまは review

を待っていますが、この論文は若干長くなりましたが、いいストーリーになっていると思うので、優しい review が帰ってくることを祈っています。

2015 年もそろそろ終わりそうですが、現在のプロジェクトを今年分うまくまとめて来年またいいスタートが切れるといいと思っています。

大滝